

## 第 32 回 世界遺産検定 マイスター試験 講評 および 学習方法

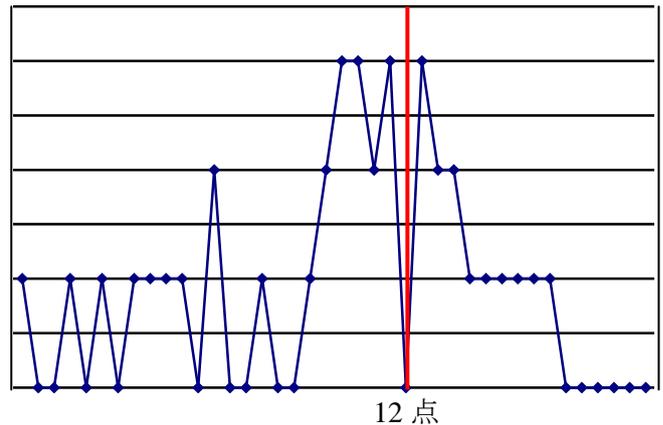
1. 実施概要    2. 認定点と分布    3. 問題    4. 総評    5. 各問の短評と学習法

### 1. 実施概要

検 定 日：2018 年 7 月 8 日（日）  
検定会場：東京・名古屋・大阪  
検定時間：120 分  
解答形式：論述形式（記述）  
申込人数：41 名  
受検人数：37 名  
認定者数：14 名（認定率 37.8%）

### 2. 認定点

認定点：12 点（20 点満点）  
最高点：17.0 点  
最低点：0.5 点



### 3. 問 題

1 次の語句を簡潔に説明しなさい。

1. 世界遺産委員会
2. ICCROM
3. 「5つのC」

2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400 字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。

登録基準                      顕著な普遍的価値  
報告                            教育・広報活動

3 諮問機関が世界遺産の推薦国・自治体に対してアドバイスを行うことができる施策についてどのように考えるか、そうした施策が出された背景も考察しつつ、『長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産』の事例を用いて、1,200 字以内で論じなさい。

### 4. 総 評

今回のマイスター試験は、認定者と認定点に達しなかった受検者との間に大きな差があったように感じた。1、2はこここのところ比較的によく書けていることが多かったが、今回は「世界遺産委員会」や「5つのC」など、簡潔に説明することが難しい内容だったこともあり、キーワードを適切に解答内に含むことができない受検者の点数が低くなった。また、3は、諮問機関とのアドバイザー契約についてしっかりと調べてきている受検者と、「アドバイザー契約を結んだ」という点のみで理解が止まっている受検者とで2分化された。特に準備が不十分であった受検者は文字数を埋めることができず、文字数不足で大きく減点された解答がこれまで以上に多かったように見受けられた。最後に、毎回感じることであるが、改行や段落あけなど、文章としての体裁が不十分である解答が相変わらず多く、対策が強く求められる。

## 5. 各問の短評と学習法

1

**短評**：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「世界遺産委員会」では委員国数や新規登録以外の審議も行われる点、「5 つの C」では世界遺産条約履行のための戦略目標である点などが書かれている必要がある。「5 つの C」をすべて羅列したところで説明にはなっていないので、説明すべき中心は何であるかを考えなければならない。これは世界遺産の講演などをする際に重要となる技術である。

**学習法**：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

**短評**：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。この問題の指定語句は基本的かつ重要なものが多いが使い方によって説明の内容が異なってくる。登録基準は作業指針で定められている点や、締約国から世界遺産委員会に保全報告が行われる点などが書かれている解答は点数が高くなった一方、どの指定語句が出てきても同じような解答をしたであろう曖昧な内容のものは点数が低くなった。毎回、世界遺産条約について説明する問題が出題されているので、指定語句によって内容を修正しつつ解答をしなければならないということを対策勉強しておく必要がある。

**学習法**：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくとうい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えておき**、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

**短評**：世界遺産に関するテーマについて、独自の意見を論理的に論ずる問題。今回は日本の遺産で初めて採用された諮問機関とのアドバイザー契約について論ずる問題であったが、初めての試みであったこともあり、内容について理解が不十分であったり誤解をしている解答が少なくなかった。世界遺産登録までのプロセスの改善がなぜ求められているのかという背景と、今回の潜伏キリシタンの事例におけるアドバイザー契約の理由について論じられているものは少なく点数が高くなった。また、文字数が足りない時にどのように対処するのかのテクニックも必要だと感じた。

**学習法**：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくとうい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。